金目川の筋替え（新しい流路に掘り直す）　　（２０２３．８）

一　右之堤、**宝永二年酉六月**両度之満水二而押切村々難儀仕候、然共、御慈悲を以御料・私領共御入用金被下置、早速水留御普請被仰付、ァ川幅せまき所・水当り之場所御切広ヶ被遊川浚共被仰付候、其時之御奉行者平岡三郎右衛門・小長谷勘左衛門様、御両人様同年閏九月御見分被遊、十月平岡三郎右衛門様御手代山下喜蔵殿・野沢藤八殿、小長谷勘左衛門様御手代林小助殿・東村源助殿御出御目論見被成、**翌年戌二月**らィ所々川通川幅御切広ヶ、長持村者川御廻シ御普請丈夫二被遊被下候、其時之御奉行茂右手代衆四人二而、御普請出来仕候御事

（「金目川堤前々ら御入用御普請之覚」平塚市史４ｐ224）

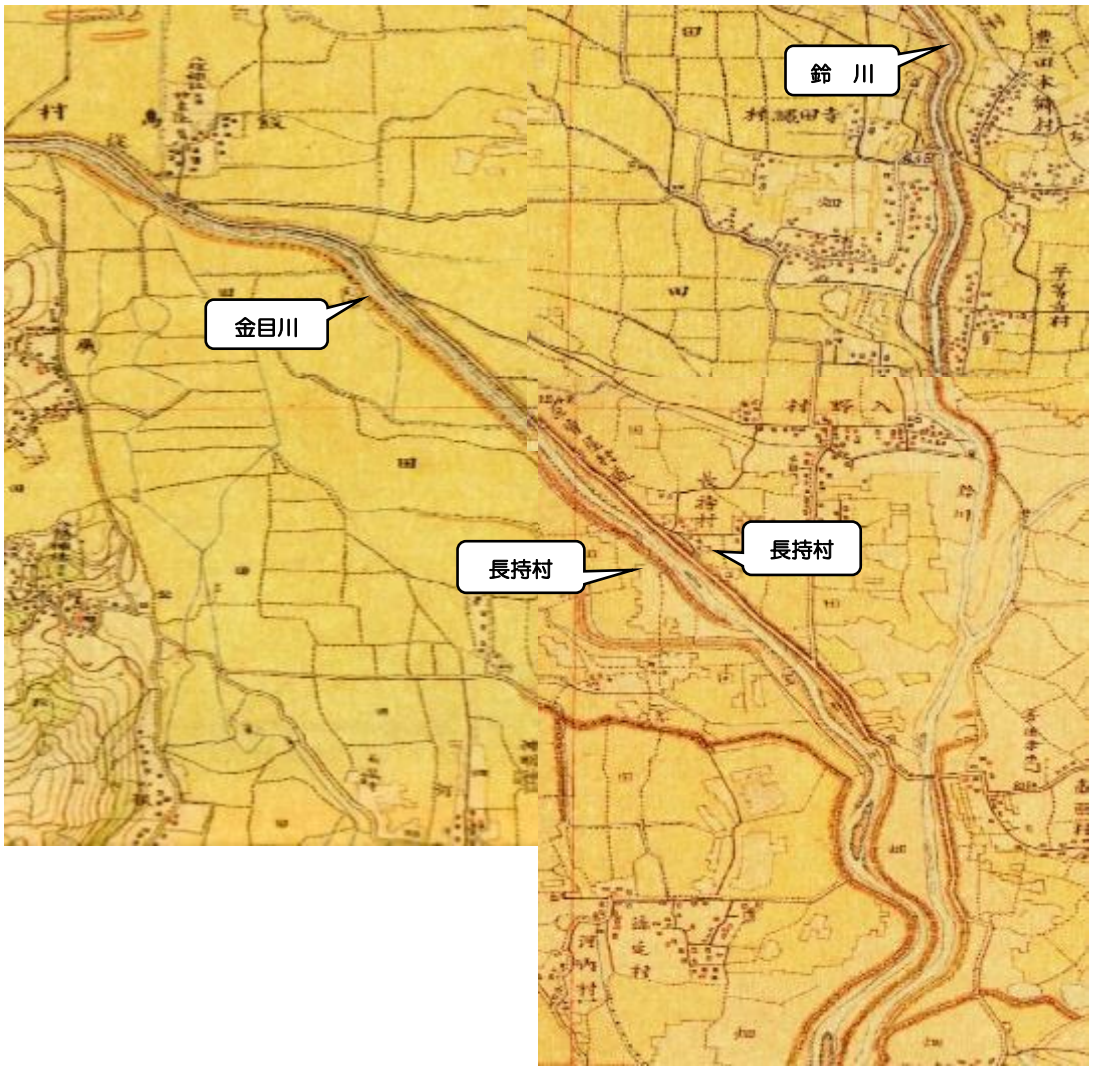
ア　「川幅せまき所・水当り之場所御切広ヶ被遊川浚共被仰付候」

■　金目川の川幅が狭い所、流れが岸にぶつかる所を掘り広げ、浚渫する事も命ぜられました。

イ　「所々川通川幅御切広ヶ、長持村者川御廻シ御普請丈夫二被遊被下候」

■　あちこちの流れの幅を広く開削し、長持村に公費で金目川の流れを回す工事が為されました。

□　1882（明治 15）年　陸軍参謀本部フランス式彩色地図（改）



金目川は度重なる洪水の被害を受けていましたが、1703（元禄 16）年　富士山噴火。火山灰堆積、河床が高くなる影響もあり、その翌年の宝永元年と宝永２年に、金目川は満水・洪水となりました。

「幕府役人の詳しい調査の結果、川浚いや修復ではなく、川幅をもっと広げて筋替え工事が行われることとなった」

右岸に位置していた長持村に金目川を通し、「入野村～長持村～南原村の間をほぼ直線的に長八百三〇間（1494m）余、川幅五〇から二五、六間余に堀替えた」

上の地図から直線化の様子が判明します。現行と同一です。

金目川の筋替えに関する詳細な文書は、未見出です。

（平塚市史９　ｐ473）